

**「おおさか海ごみゼロプラン」
（大阪府海岸漂着物等対策推進地域計画）
の進捗状況等の点検の主なポイントについて**

- 前回部会におけるプランの取組状況や海岸漂着物等を取り巻く状況に係る意見・指摘事項を踏まえた、プランの進捗状況等の点検の主なポイントは次のとおり。

1. 目標の達成状況の把握と情報発信について

- プランの長期的(2050年を想定)に目指す姿、計画期間、目標は維持(変更しない)。
- 大阪湾に流入するプラスチックごみの量の推計方法について、降水量の影響を精細に分析することはできていない、水面下を流れているものがどの程度あるかということに関しては知見もなく考慮できていない。
- プラスチックごみの流出については、いわゆるL-Q関係(流量(Q)が増えるとプラスチックごみ流出量(L)も増える)が見られるという研究報告がある一方、特に人口密度の高い区分Ⅰの河川では必ずしもそのようなデータとなっておらず、その実態が十分に把握できていない。
 - ➡ 目標の達成状況の把握において、引き続き、研究動向や国等における調査・検討事例の情報収集も行いながら、推計方法の検討を進めていくこととし、プランにその旨記載する。
- プラスチックごみ流入量の推計結果を府民の行動変容を促すツールとしても使えるよう、情報発信のしかたを工夫すべき。
 - ➡ プラスチックごみの発生や流出実態について、引き続き定量的な把握を進めるとともに、府民の行動変容の促進につなげられるよう工夫しながら情報発信を行っていくこととし、プランにその旨記載する。

2. 取組指標について

- プランの取組指標については、大阪府が実施している調査結果等のデータを効果的に活用。
- プラスチックごみがどれだけ海に流入しているのかという数字も大事であるが、目標を達成するためにはあとどれだけ取組を努力しないといけないかというところを府民に伝えることも重要。
 - ➡ 引き続き、定量的な把握を行い、工夫しながら効果的な情報発信を行っていく。
- 府民にとってよりわかりやすい新たな取組指標として、海岸や河川におけるごみの回収量が同じ努力量に対してどれだけ減ってきているかといったことも使えるのではないか、ペットボトルなどの特定の身近な製品の生産・販売・消費からごみとしての流出までのプロセスを数値化して示せないか、といったことも検討すべき。
 - ➡ 海岸や河川におけるごみの回収については、引き続き、調査を継続し、その結果を分析していく。また、ペットボトルなどの流出プロセスの数値化については、引き続き、国等における調査・検討事例の情報収集を行っていく。
- プラスチックの消費量など排出側のデータとプラスチックごみの海への流出量のデータを突き合わせて見てみることも重要。
 - ➡ 府域におけるプラスチックごみの排出側と流出側のデータの比較について検討を進めていくこととし、プランにその旨記載する。

3. 目標達成に向けて取り組む施策について

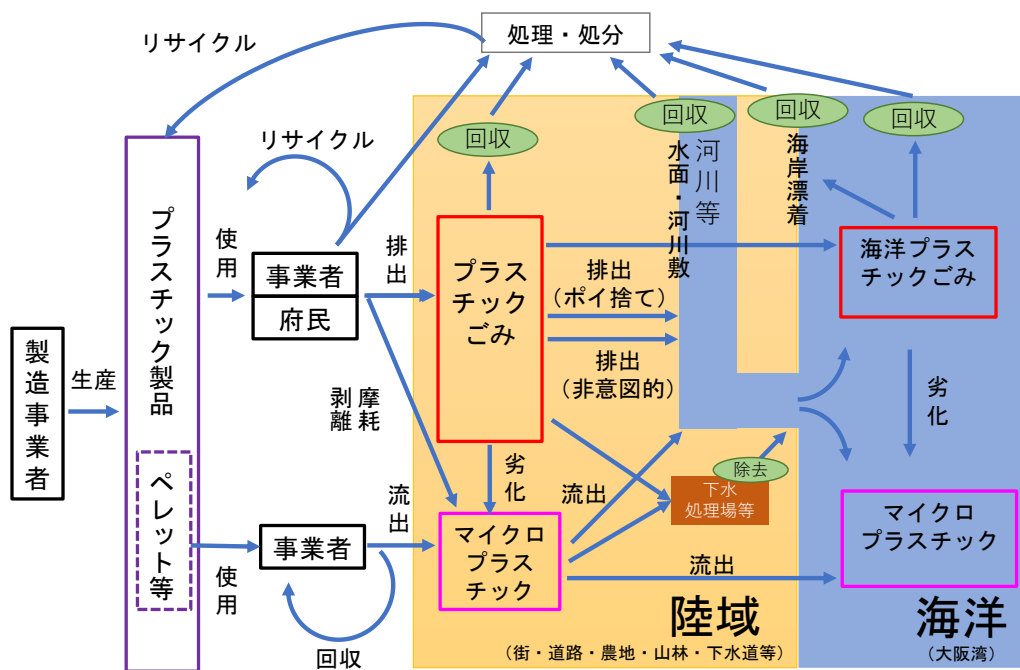
- プランに基づく主な取組みの実施状況を踏まえ、施策の体系を一部見直しするとともに、施策の内容を更新。
- 府民への情報発信や各主体との連携においては、清掃活動への参加もプラスチックを分別してリサイクルする活動も、海洋プラスチックごみの削減にも貢献するという共通認識を持ってモチベーションが上がるように留意して取り組むべきとの意見あり。
 - ➡ 様々な取組みが海洋プラスチックごみの削減にも貢献することに留意して、より効果的に対策を実施することができるよう取り組んでいくこととし、プランにその旨記載する。

4. 海岸漂着物等を取り巻く状況に係る時点更新について

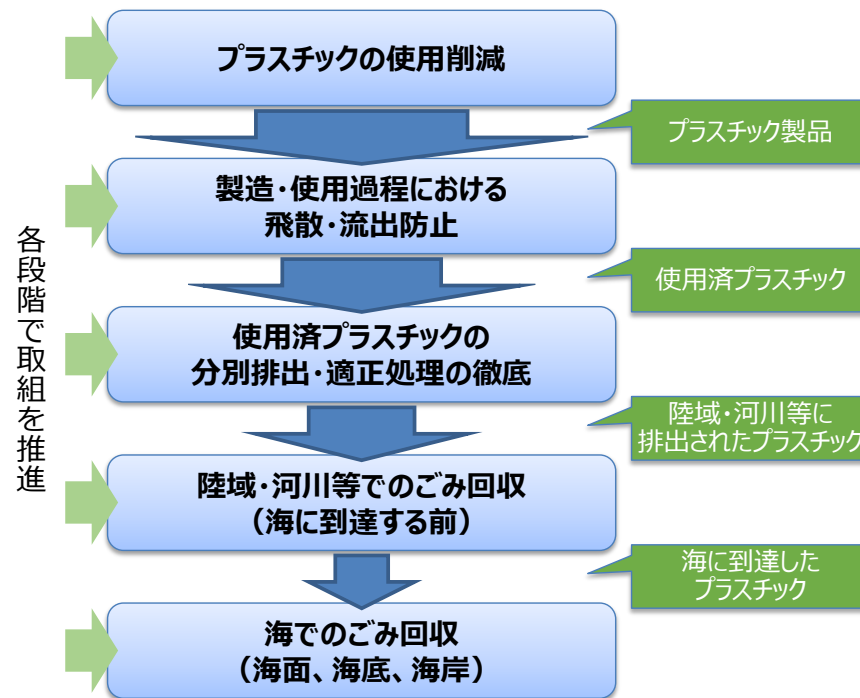
- 国際的背景や大阪府における動きについて、最新の状況を踏まえて更新。また、大阪湾の海岸漂着物の状況等について、プラン策定以降の調査結果等を反映。
- 瀬戸内海プラごみ対策ネットワークの立ち上げなど、プラン策定以降の新たな動きを反映。
- 新型コロナウイルスへの対応に係る記載を見直し。

5. 海洋プラスチックごみに係る図(イメージ)のブラッシュアップについて

- 「海洋プラスチックごみ発生プロセスのイメージ」及び「海洋プラスチックごみ対策の全体像のイメージ」(プランp.22)をブラッシュアップ。



海洋プラスチックごみ発生プロセスのイメージ(案)



海洋プラスチックごみ対策の全体像のイメージ(案)